

令和4年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>○学びの連続性をふまえた教育課程を編成し、個別教育計画による一人ひとりのニーズに合わせた教育を実践する。</p> <p>○豊かな心と健やかな体を育む教育活動を実践する。</p>	<p>①カリキュラムマネジメントの視点による系統性のある教育課程の編成をさらに進め、計画的に授業実践に取り組む。また、高等部においては、シチズンシップ教育の充実を図る。</p> <p>②自分や他者を大切にし、自己肯定感を高め、認め合える授業を実践する。</p>	<p>①教科ごとに授業の内容やねらいを整理し、系統性を検証する。年次研修対象者にファシリテーターを指定し授業力向上を図る。また、高等部においては、年間指導計画に模擬投票や消費者教育を位置付け実践する。</p> <p>②教育活動全体を通して明確にできるよう、指導案の評価欄にチェック項目を設ける。</p>	<p>①教科ごとの系統性を検証できたか。授業改善、授業力向上にむけて組織的に取組めたか。また、シチズンシップ教育の充実を図ることができたか。</p> <p>②自己肯定感を高め、認め合える授業を実践できたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>○一人ひとりのニーズを把握し、根拠に基づいた支援・指導に組織的に取り組む。</p> <p>○インクルーシブ教育の推進を図る。</p>	<p>①校内支援体制を整理し、アセスメント結果を活用した指導支援を組織的に進める。</p> <p>②情報共有を丁寧に行い、居住地交流や学校間交流の充実を図る。</p>	<p>①アセスメントの結果が定着するよう、個別教育計画を活用する。児童生徒チーム、CST、教育相談コーディネーターの役割と業務の整理を引き続き進める。</p> <p>②オンラインでの交流の実施に向けて、交流先の学校等と機材の調整をすすめ、時期等検討する。</p>	<p>①アセスメントの結果を活用できたか。業務内容の整理ができたか。</p> <p>②居住地交流の充実を図ることができたか。オンラインでの交流は実施できたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>○自立と社会参加をめざし、一人ひとりのニーズや適性に応じた進路指導・支援を行う。</p>	<p>①自立と社会参加をする上で必要な力の育成を図り、一人ひとりの発達段階に応じた指導・支援をキャリア教育の視点を持って実践する。</p>	<p>①教育活動の中でキャリア教育の視点を明確にできるよう、指導案に項目を入れる。また、進路専任が高等部の授業や行事に積極的に参加し、生徒の実態把握に務め、担任と連携した進路支援を進める。</p>	<p>①キャリア教育の視点を明確にできたか。また、生徒の実態を把握し、担任、進路専任が連携して進路支援ができたか。</p>
4	地域等との協働	<p>○共生社会の実現に向け、地域との協働による学校運営をすすめ、地域と連携した教育活動を実践する。</p> <p>○地域における特別支援教育のセンター的機能としての取組を推進する。</p>	<p>①地域や保護者、関係機関と連携し、教育環境の充実を図る。また、定期的な校外の情報発信を進める。</p> <p>②地域とさらに工夫した連携・協働の方法を検討し、地域において支援を必要とする児童・生徒のニーズに応じた効果的な支援を進める。</p>	<p>①教育環境プロジェクトを中心にコミュニティ・スクールと連携して環境整備を進める。また、「ちいきのなかで」を発展させて、教育活動の様子をホームページや学校通信で発信する。</p> <p>②感染症の状況を踏まえながら、地域のニーズに合わせた教育相談や研修会等実施する。</p>	<p>①図書等の教育環境を整理進められたか。ホームページや学校通信等で情報発信が適切にできたか。</p> <p>②地域のニーズに合わせた教育相談や研修会等実施できたか。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
5	学校管理 学校運営	<p>○安全で安心な教育環境の整備に取組む。</p> <p>○教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。</p> <p>○信頼と期待に応える学校づくりを組織的に行う。</p>	<p>①耐震化工事に伴う引っ越しを踏まえて、教育環境の整備計画を立て、安心して教育活動に取組めるようにする。また、自然災害や事故等に備え、組織的に学校安全の推進に取組む。</p> <p>②効率的な校務の運営をさらに進め、業務の見直しを図る。</p> <p>③不祥事防止に向けた取組を計画的に継続して実施する。また、課題解決に向けたプロジェクトをリーダーが中心となって組織的に取組む。</p>	<p>①耐震化プロジェクトと学部が連携し、安全な教育活動の計画を立てる。合わせてUDプロジェクトが中心となり、校内のユニバーサル化を推進し、児童・生徒や外部の方にもわかりやすい表示や視覚支援を進める。また、災害時に備えた実践的な訓練を計画的に実施する。</p> <p>②Teams内のファイルサーバーの活用状況を定期的にチェックする。また、グループ業務の精選を進める。</p> <p>③不祥事防止研修を計画的に実施する。また、医ケア通学支援や分教室移転、地域防災推進等、プロジェクトが中心となって推進する。</p>	<p>①安全に教育活動が実践できたか。校内のユニバーサル化が進められたか。また、実践的な訓練が実施できたか。</p> <p>②効率的に校務ができたか。また、グループ業務の精選ができたか。</p> <p>③不祥事防止に向けた取組が計画的に実施できたか。また、その他、プロジェクトが組織的に取組めたか。</p>